

とても大きな一歩 ～オラパリブ日本で発売～

ご無沙汰しています。

4月18日 日本で オラパリブ(商品名 リムパーザ)という新しい薬が発売されました。発売前から、我々 がんを扱う医療者の中では大きな話題となっていた薬剤で、今回は卵巣がんに対して保険適応が通りました。

これは PARP (ポリアデノシン 5'二リン酸リボースポリメラーゼ) という DNA に関連した酵素を阻害する薬剤です。

ちょっと難しい話になってしまうと読んでいただけないと思います。

簡単にいうと新しい作用機序の卵巣がんの薬剤が登場したということによいと思います。

卵巣がんの患者さんであれば誰でも使える薬かというところではありません。

卵巣がんの現在の標準治療は、プラチナ製剤という抗がん剤とタキサン系といわれる抗がん剤との2種類の抗がん剤を使い、手術もそれにかからめていくというものです。

比較的効果がでる確率が高い治療ですが、その後再発する方もやはりおられます。

治療を終えてから再発まで少し間がある人の場合には、再度、プラチナ製剤を使うことで、がんを小さくすることが期待できます。

今回のオラパリブという薬は、いったん治療してよくなったけど再発してしまい、かつ、プラチナ製剤を再開したら効果があつたという人が使えます。

オラパリブに変更することで、より治療効果をたかめることが期待されます。

オラパリブは飲み薬なので、点滴の治療に比べると、皆様にとってはハードルの低い治療とご想像いただけるのではないのでしょうか。

1日2回のむことを毎日つづけていくことになります。

主な副作用は吐き気、疲れやすさです。また、他の種類の抗がん剤と同じように骨髄抑制といって血液の細胞が減ることがあるので定期的な血液検査は必要になります。

また、新しい薬の常として、長期投与はできませんので、少なくとも2週間に1回は外来にきていただいて、全身状態の確認や血液検査の結果をみながら治療を行うことになります。

では、また。